

15 番の歌 神の初子を賛美しましょう

エホバの名前はイエスにとってどれほど大切か

「私はあなたのお名前を彼らに知らせました。これからも知らせます」。ヨハネ 17:26

ポイント：イエスはどのようにエホバの名前を知らせましたか。

エホバの名前を神聖なものとし、名誉を回復させるために何をしてきたでしょうか。

1-2. (ア) イエスは死くなる前の晩にどんなことをしましたか。 (イ) この記事では何を考えますか。

西暦 33 年ニサン 14 日、木曜日の夜のことです。イエスはこれから自分がどんな目に遭うかを分かっていました。裏切られ、裁判にかけられ、有罪になり、拷問に遭い、処刑されます。イエスは階上の部屋で使徒たちと特別な食事をします。別れを前にして、使徒たちを力づけるために話をします。階上の部屋を離れる前、イエスはとても深い意味のある祈りを捧げます。その祈りはヨハネ 17 章に記録されています。

2 その祈りから、この時イエスが何を一番気に掛けていたかが分かります。それはイエスが地上で伝道してきた間ずっと大切にしてきたものでもあります。一体何でしょうか。

「私はあなたのお名前を彼らに知らせました」

3. イエスはエホバの名前について何と言いましたか。それはどういう意味でしたか。 (ヨハネ 17:6, 26)

3 イエスは祈りの中で、「私はあなたのお名前を彼らに知らせました」と言っています。イエスは同じような表現を 2 回使っています。 (ヨハネ 17:6 私は、あなたが世から取って託してくださいた人たちにあなたの名前を明らかにし(*知らせ)ました。この人たちがあなたのものでしたが、私に託してくださいました。彼らはあなたの言葉を守っています, 26 私はあなたの名前を彼らに知らせました。これからも知らせます。あなたが私を愛してくださったように彼らが愛を示し(d*愛してくださった愛が彼らの内にあり), 私が彼らと結び付いているためです」。を読む。) 神の名前を知らせた、とはどういう意味でしょうか。神の名前を教えたということでしょうか。弟子たちはユダヤ人だったので、神の名前がエホバであることはすでに知っていました。その名前はヘブライ語聖書中に何千回も出てきます。それでイエスは、単に神の名前がエホバだと教えたわけではありません。その名前を持つ神がどんな方かを教えました。エホバのことをよりよく知るよう弟子たちを助けました。エホバの魅力的な性格、これまでどんなことをしてきて、これからどんなことをしようとしているか、地球や人間に 대해どんなことを思い描いているか、などを教えました。イエスほどエホバのことをよく知っていて、エホバについて詳しく教えられる人はいませんでした。

4-5. (ア) ある人の名前が自分にとって特別な意味を持つようになることがあるのはどうしてですか。例を挙げてください。

(イ) 弟子たちはどういう意味でエホバの名前をよく知るようになりましたか。

4 こんな例えで考えてみましょう。会衆に医師として働いている、博という名前の長老がいるとします。長い付き合いなので、あなたはその兄弟のことによく知っています。ある時、命が危険にさらされるような事態が生じ、博兄弟が働いている病院に運ばれます。兄弟に手術をしてもらひ、一命を取り留めます。感謝してもしきれない、という気持ちになるのではないでしょか。そして、その兄弟の名前を聞くたびに、自分にしてくれたことが思い浮かぶようになるはずです。あなたにとって博兄弟はもはや単なる会衆の長老ではありません。命を救ってくれた医者であります。

5 同じように、弟子たちもエホバの名前は以前から知っていました。でもイエスのおかげで、エホバという名を持つ方についてもっとよく分かるようになりました。イエスは何をする時も何を言う時も、エホバに完璧に倣っていたからです。弟子たちは、イエスの教え方や人への接し方から、エホバがどんな神かをよく「知る」ようになりました。（ヨハ 14:9 イエスは言った。「こんなに長い間一緒に過ごしてきたのに、フィリポ、あなたはまだ私を知らないのですか。私を見た人は、父をも見たのです。どうして、『父を見せてください』と言うのですか；17:3 永遠の命を得るには、唯一の真の神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストのことを知る必要があります。）

「私に託してくださいたお名前」

6. どういう意味でイエスはエホバから名前を託されていましたか。（ヨハネ 17:11, 12）

6 イエスは弟子たちのためにこう祈りました。「あなたは私にあなたの名前を託してくださいました。その名前のためにこの人たちを見守ってください」。（ヨハネ 17:11, 12 私は世からいなくなりますが、この人たちは世にいます。私はあなたのものと向かいます。聖なる父よ、あなたは私にあなたの名前を託してくださいました。その名前のためにこの人たちを見守ってください。私たちが一つであるように、彼らも一つになるためです。12 私は、彼らと一緒にいた時、私に託してくださいたお名前のためにいつも彼らを見守りました。私は彼らを守り、誰も滅びていません。滅びるあの者だけは別ですが、それは聖句が実現するためでした。を読む。）イエスがエホバの名前を託されたとは、イエスがエホバとも呼ばれるようになるということですか。そうではありません。イエスは「あなたの名前」と言っているので、イエスの名前がエホバになるとは考えられません。ではイエスはどういう意味で、神の名前が自分に託された、と言ったのでしょうか。イエスは、①神の代理として神のメッセージを伝えてきました。また、②天の父の名によって地上に来て、その名によって奇跡を起こしました。（ヨハ 5:43 私が天の父の名によって来ているのに、あなた方は私を受け入れません。ほかの人が自分の名によって来れば、あなた方はその人を受け入れるでしょう；10:25 イエスは答えた。「私は言いましたが、あなた方は信じません。父の名によって私が行っている事柄を見れば、私が誰かは明らかです。）さら

に、③イエスという名前には「エホバは救い」という意味があるので、イエスの名前とエホバの名前には深い関係があります。

7. イエスがエホバの名によって語る、とはどういうことですか。

7 イエスがエホバの代理として神からのメッセージを伝えた、とはどういうことでしょうか。例えで考えてみましょう。大使は自分の国のトップの代理を務め、いわばその人の名によって語ることがあります。そのため、大使の発言は国のトップの発言と見なされます。同じように、イエスもエホバの代理を務め、エホバの名によって語りました。（マタ 21:9 さらに群衆は、イエスの前を行く人も後に続く人もこう呼び続けた。「お救いください、ダビデの子を！ エホバの名によって来る方が祝福されますように！ お救いください、この上なく高い所で！」。ルカ 13:35 聞きなさい、あなたの方の家は見捨てられます。あなた方に言いますが、あなた方は、『エホバの名によって来る方が祝福されますように！』と言う時まで、決して私を見ることはありません。）

8. イエスはどのように人間になる前からエホバの名によって行動していましたか。（出エジプト記 23:20, 21）

8 イエスは聖書の中で言葉と呼ばれています。ほかの天使たちや人間に神からのメッセージや指示を伝える、ということです。（ヨハ 1:1-3 初めに、言葉と呼ばれる方がいた。言葉は神と共にいて、言葉は神のようだった。2 この方は初めに神と共にいた。3 全てのものはこの方を通して存在するようになり、彼を通さずに存在するようになったものは一つもない。彼によって存在するようになったものは）イスラエル人を導くためにエホバが遣わした天使はイエスだったと思われます。エホバはイスラエル人にその天使に従うように命じ、そうすべき理由についてこう言いました。「彼は私の名によって行動するからである」。*天使たちもエホバの代理を務め、エホバの名によってメッセージを伝えることがありました。それで聖書には、実際は天使が話していたのにエホバが話したこととして書かれている箇所があります。（創 18:1-33）モーセはエホバから律法を与えられました。幾つかの聖句から、エホバが天使たちを通してそうしたことが分かります。（レビ 27:34。使徒 7:38, 53。ガラ 3:19。ヘブ 2:2-4）（出エジプト記 23:20, 21 私はあなたの前を行く天使を送り、道中あなたを守らせ、私が用意した場所に連れていかせる。21 彼の言うことに注意を払い、従いなさい。反逆してはならない。彼はあなたたちの違反を容赦しない。彼は私の名によって行動するからである。を読む。）つまり、イエスはエホバの代理として働き、エホバの名前を神聖なものとするためにとても大切な役割を担うということです。

「父よ、お名前を栄光あるものとしてください」

9. イエスがエホバの名前をとても大切にしていた、といえるのはどうしてですか。

9 ここまで考えてきた通り、イエスは人間として地球に来る前からエホバの名前を何よりも大切にしていました。そして地球に来てからも、イエスの行うこと全てにはエホバの名を思う強い気持ちが表っていました。宣教が終わりに近づいた頃、イエスはエホバにこう言いました。「父よ、お名前を栄光あるものとしてください」。すぐにエホバは雷のような力強い声でこう答えます。「私はすでにそれを栄光あるものとし、再び栄光あるものとする」。（ヨハ 12:28 父よ、お

名前を栄光あるものとしてください」。すると、天から声があった。「私はすでにそれを栄光あるものとし、再び栄光あるものとする」。)

10-11. (ア) イエスはどのようにエホバの名前を栄光あるものとしましたか。(挿絵も参照。) (イ) エホバの名前が神聖なものとされ、名譽が回復される必要があるのはどうしてですか。

10 イエスもエホバの名前を栄光あるものとしました。どのようにでしょうか。エホバがどれほど素晴らしい方が、どれほど素晴らしいことをしているかをみんなに知らせることによってです。でもそれだけではありません。イエスは、エホバの名前が栄光あるものとされるには、エホバの名前が神聖なものとされ、名譽が回復されなければいけないということを知っていました。^{*語句}の説明: 「神聖なものとする」とは、敬い、崇高なものと考え、大切に扱うという意味です。「名譽を回復する」とは、名声や評判を取り戻すという意味です。これがどれほど大切かを弟子たちに伝えるため、イエスはこう祈るように教えました。「天におられる私たちの父よ、お名前が神聖なものとされますように」。(マタ 6:9) それで、このように祈らなければなりません。『天におられる私たちの父よ、お名前が神聖なものとされますように。)

11 エホバの名前が神聖なものとされ、名譽が回復される必要があるのはどうしてでしょうか。エデンの園で悪魔サタンがエホバ神のことを悪く言ったことが始まりです。サタンは、エホバがうそつきでアダムとエバに良いものを与えていないと主張しました。(創 3:1-5) さて、エホバ神が造った野生動物の中で蛇が最も用心深かった(*利口だった)。蛇が女に言った。「あなたたちは庭園の全ての木の実を食べてはならない、と神が言ったのは本当ですか」。2 女は蛇に言った。「私たちは庭園の木の実を食べてよいのです。3 でも、庭園の真ん中にある木の実について、神は、『食べてはならない。触れてもならない。食べたり触れたりするなら死ぬ』と言いました」。4 蛇は女に言った。「あなたたちは決して死にません。5 その木の実を食べた日に、目が開かれ、あなたたちが神のようになって善惡を知るようになることを神は知っているのです」。エホバのやり方は間違っていると言ったも同然です。そのように正面切ってエホバを攻撃し、名前つまり評判を傷つけました。ヨブの時代にサタンは、人間がエホバに仕えているのは自分にメリットがあるからに過ぎない、とも言いました。さらに、エホバを心から愛している人間なんかいない、苦しい目に遭えばあっさりエホバを裏切る、とも主張しました。(ヨブ 1:9-11) サタンはエホバに答えた。「ヨブは本当に純粹な気持ちで神を畏れているのでしょうか。10 彼も家族も全ての持ち物も、あなたが柵で囲んで守ったのではありませんか。あなたの祝福によって彼の仕事はうまく運び、家畜は非常に多くなりました。11 試しに、あなたの手を出して、彼の持つもの全てを破壊してください。彼はきっと面と向かってあなたを侮辱します」;(2:4) サタンはエホバに答えた。「誰でも自分の身が一番(*皮膚のためには皮膚)です。人は自分の命を守るために、自分が持つもの全てを差し出します。」本当にうそつきなのは、エホバとサタンのどちらでしょうか。そのことをはっきりさせるには時間が必要でした。

イエスは神の名前が神聖なものとされることが
どれほど大切かを教えた。(10節を参照。)



「私は命をなげうつ」

12. イエスはエホバの名前をとても愛していたので、どんなことをする覚悟でいましたか。

12 イエスはエホバを深く愛していたので、エホバの名前を神聖なものとし、名誉を回復させるために、できることは何でもしたいと思っていました。イエスはエホバの名前のためなら命を犠牲にすることもいといませんでした。 *イエスが死ぬことで、人間が永遠に生きる道も開かれました。 こう言っています。「私は命をなげうつ」。（ヨハ 10:17, 18 父は私を愛してください。私が命をなげうつからです。それは私が再び命を受けるためです。 18 誰かが私の命を奪うのではありません。 私自らなげうつのです。私は命をなげうつ権限があり、再び受ける権限があります。この命令は父から受けました。） 完全な人間だったアダムとエバは、エホバに背を向けてサタンの方に付きました。でもイエスは、エホバへの愛がどんなことがあっても変わらないほど強いものだと証明しました。 地球に来て、忠誠を貫き通す生き方をしました。（ヘブ 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できないような方ではありません。あらゆる点で私たちと同じように試され、しかも罪がない方です；5:7-10 キリストは、地上で生きていた(d*肉体でいた)間、自分を死から救える方に祈願を捧げ、願い(*請願)を伝えました。大きな声で叫び、涙を流しながらそのようにし、神への畏れゆえに聞き入れられました。 8 キリストは神の子であったにもかかわらず、苦しんだ事柄から従順を学びました。 9 そして、完全にされた後、自分に従う人全てに永遠の救いをもたらす方になりました。 10 神により、メルキゼデクのような大祭司に指名されたからです。） 杖に掛けられて苦しい目に遭っても、死ぬまでエホバとエホバの名前への愛を守り抜きました。（ヘブ 12:2 私たちの信仰を導き、完全にしてくださる方であるイエスを一心に見つめながら走るのです。イエスは、前途にある喜びのために、恥を物ともせず苦しみの杖(*)に耐え、神の座の右に座りました。）

13. サタンがうそつきであることをイエスほど完璧に証明できる人はいません。どうしてそういえますか。（挿絵も参照。）

13 イエスは自分の生き方によって、エホバではなくサタンがうそつきであるということを、疑いの余地なく証明しました。（ヨハ 8:44 あなた方は、あなた方の父、悪魔から出ていて、自分たちの父が欲することを行おうとしています。その者はその始まりから人殺しで、真理から離れました。真理を好まないからです。彼にとって、うそを語るのは自然なことです。うそつきで、うそのが根源(d*父)だからです。） イエスはエホバのことを誰よりもよく知っていました。それで、サタンがエホバについて言っている悪口が1つでも本当なら、それに気付いたはずです。でも、イエスはサタンの言い分が根も葉もないうそだと分かっていたので、エホバの評判を守る決意が揺らぐことはありませんでした。 杖に掛けられてエホバに見捨てられたかに見える状況でも、エホバに背を向けることなく、苦しみに耐えて死にました。（マタ 27:46 午後3時ごろ、イエスは大声で叫び、「エリ、エリ、ラマサバクタニ」、つまり、「私の神、私の神、なぜ私を見捨てたのですか」と言った。） *「ものの塔」2021年4月号30-31ページの「読者からの質問：イエスが死の直前に詩編22編1節のダビデの言葉を引用したのはなぜ」を参照。



イエスは人生を懸けて、エホバではなくサタンがうそつきだと証明した。（13節を参照。）

「私は、あなたから委ねられたことを成し遂げ……ました」

14. 忠誠を貫いたイエスにエホバはどのように報いましたか。

14 イエスは亡くなる前の晩に捧げた祈りの中でこう言いました。「私は、あなたから委ねられたことを成し遂げ……ました」。イエスは忠誠を貫いた自分にエホバが報いてくれることを信じていました。（ヨハ 17:4, 5 私は、あなたから委ねられたことを成し遂げて、地上であなたをたたえました。5 父よ、人類が誕生する前に私があなたのそばで栄光を受けていたように、今、私をそばに置いて栄光をお与えください。）実際、その通りになりました。イエスは死んだとはいえ、それで終わりではありませんでした。（使徒 2:23, 24 あなた方は、神の意志と予知の通りに引き渡されたこの方を、不法な人たちによって杭に打ち付けて殺しました。24 しかし神は、この方を死の苦しみから解放して復活させました。この方が死に捕らえられていることなどあり得なかつたからです。）エホバはイエスを復活させ、天での高い地位を与えました。（フィリ 2:8, 9 その上、人として来た時、謙遜さを示し(*自分を低く見て)，死に至るまで従順でした(*になりました)。苦しみの杭(*)に掛けられて死ぬことを受け入れたのです。9 そのため、神はキリストをさらに上の地位に就け、あらゆる名に勝る名を喜んで与えました。）やがてイエスは神の王国の王になりました。その王国はどんなことをしますか。イエスが祈り方を教えた時の次の言葉から分かります。「あなたの王国が来ますように。あなたの[エホバ]の望まれることが、天と同じように地上でも行われますように」。（マタ 6:10 あなたの王国が来ますように。あなたの望まれることが、天と同じように地上でも行われますように。）

15. イエスはこれからどんなことをしますか。

15 イエスはハルマゲドンの時に神の敵たちと戦い、悪い人たちを滅ぼします。（啓 16:14 それらは邪悪な天使たちの息(*言葉/ギ語プネウマ)であって、奇跡(d*しるし)を行い、全世界の王たちのもとに向かう。全能の神の大いなる日の戦争に王たちを招集するためである、16 それらの息(*言葉/ギ語プネウマ)により、王たちはヘブライ語でハルマゲドン(*アルマゲドン/m メギドの山)と呼ばれる場所に集められた；19:11-16 私が見ていると、天が開かれ、白い馬が現れた。それに乗っている者は、忠実で真実な方と呼ばれ、正しく裁き、正義のために戦う。12 この方の目は燃える炎のようであり、頭には多くの王冠がある。この方には、ほかの誰も知らない名が記されている。13 この方は血に染まった(if*血が振り掛かった)外衣を着ており、神の言葉という名で呼ばれている。14 天の軍勢が、白くて清い上等の亜麻布の衣服を着て、白い馬に乗り、この方の後に従っていた。15 この方の口からは長くて鋭い剣が突き出ており、それによって国々を討つ。また、この方は鉄のつえをもって人々を処罰し(*治め)，全能の神の激しい怒りの搾り場でブドウを踏む。16

この方の外衣には、そのももの所に、王の中の王また主の中の主という名が書かれている。) その後、サタンを「底知れぬ深み」に投げ込みます。サタンは死んだように何もできなくなるということです。 (啓 20:1-3 私がさらに見ていると、底知れぬ深みの鍵と大きな鎖を持った天使が天から下ってきた。 2 その天使は、あの初めの蛇である竜、悪魔サタンを捕らえて、1000年間動けないように縛った。 3 そして竜を底知れぬ深みに投げ込み、そこを閉じて封印し、1000年が終わるまで竜がもはや人々を惑わさないようにした。その後、竜はしばらくの間解放されることになる。) キリストの千年統治が始まり、その間に地球は平和な場所になり、人間は徐々に完全になっていきます。イエスは亡くなった人たちを生き返らせ、地球全体をパラダイスに変えていきます。こうして、エホバが思い描いていたことは実現していきます。 (啓 21:1-4 また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去っており、海はもはやない。 2 さらに見ると、聖なる都市である新しいエルサレムが、花婿のために着飾った花嫁のように、天から、神のもとから下ってきた。 3 その時、王座から大きな声がした。「見なさい！ 神の天幕が人々と共にあり、神は人々と共に住み、人々は神の民となります。神が人々と共にいるようになります。 4 神は人々の目から全ての涙を拭い去ります。もはや死はなくなり、悲しみも嘆きも苦痛もなくなります。以前のものは過ぎ去ったのです」。)

16. 1000年間の統治の終わりまでに、どんなことが実現していますか。

16 1000年間の統治の終わりまでに、私たちはどうなっているでしょうか。人類はもう罪を負った状態ではありません。完全なので、贖いに基づいて罪の許しを求める必要はありません。大祭司や祭司に助けてもらわなくても、エホバとの絆を持つようになります。その時には「最後の敵である死が除き去られ」てもいます。亡くなった人々は生き返っているので、墓は空っぽです。生きている人は一人残らず完全になっています。 (コリント第一 15:25, 26 神がキリストに全ての敵を踏みつけさせるまで、キリストは王として治めるのです。 26 そして最後の敵である死が除き去られます。)

17-18. (ア) 1000年の統治の終わりにどんなことが起きますか。 (イ) イエスは1000年の統治の終わりに何をしますか。 (コリント第一 15:24, 28) (挿絵も参照。)

17 さらに、1000年の統治の終わりには特別なことが起きます。エホバの名前を巡る問題に決着がつきます。エホバの名前にについて悪く言う人はもう一人もいません。どういうことでしょうか。エデンの園でサタンは、エホバがうそつきで愛の気持ちから人間を治めているわけではないと主張しました。でも、それ以来ずっと、エホバを愛し敬う人々はエホバの名前を神聖なものとするためにベストを尽くしてきました。そのようにして、エホバのやり方が一番優れていることが繰り返し証明されてきました。1000年の統治が終わる時には、エホバの名誉が完全に回復されます。エホバが愛情深いお父さんであることは、疑問の余地なく明らかになっています。

18 サタンがうそつきだということは、もうはっきり証明されています。では、イエスは1000年の統治の終わりに何をしますか。サタンのようにエホバを裏切ったりするでしょうか。いいえ！ (コリント第一 15:24) 次いで、終わりとなります。その時、キリストは父である神に王国を渡します。その時までに、キリストは全ての政府、また全ての権威と力を除き去っています、28 全て

のものがキリストに服従させられた後、神の子自身も、全てのものを自分に服従させた方に服従します。こうして、誰にとっても神が全てになるのです。（を読む。）イエスはエホバを深く愛しているので、エホバのためなら何でも差し出したいと思っています。サタンとは大違います。王国をエホバに返し、エホバに全てを治めてもらおうとします。



イエスは1000年の統治の終わりに王国をエホバに返す。（18節を参照。）

19. イエスにとってエホバの名前はどれほど大切なものですか。

19 エホバがイエスに名前を託したいと思ったのもよく分かります。イエスはエホバの代理としての役割を完璧に果たしてきました。イエスにとってエホバの名前はどれほど大切なものでしょうか。ほかの何よりも大切です。エホバの名前のために自分の命を犠牲にしました。そして1000年の統治の終わりには、エホバの名前のために、持っているもの全てをエホバに差し出します。エホバの名前をここまで大切にしているイエスに、私たちはどのように倣えるでしょうか。次の記事で考えます。

何を学びましたか

1. イエスが弟子たちにエホバの名前を知らせたとはどういう意味ですか。

・S01 単に神の名前がエホバだと教えたわけではなく、その名前を持つ神がどんな方かを教えたという意味。エホバのことをよりよく知るよう弟子たちを助け、エホバの魅力的な性格、これまでどんなことをしてきて、これからどんなことをしようとしているか、地球や人間に対してどんなことを思い描いているか、などを教えた。

2. イエスがエホバの名前を託されたとはどういう意味ですか。

・S06 イエスがエホバとも呼ばれるようになるということではなく、①神の代理として神のメッセージを伝えてきた、②天の父の名によって地上に来て、その名によって奇跡を起こした、③イエスという名前には「エホバは救い」という意味があるので、イエスの名前とエホバの名前には深い関係がある一という意味。

3. イエスはエホバの名前のために何をしましたか。どうしてですか。

・S12 イエスはエホバを深く愛していたので、エホバの名前を神聖なものとし、名誉を回復させるために、できることは何でもしたいと思っていた。イエスはエホバの名前のためなら命を犠牲にすることもいとわなかった。

・S13 イエスは自分の生き方によって、エホバではなくサタンがうそつきであるということを、疑いの余地なく証明した。

[16番の歌 王を任命したヤハを賛美する](#)